

様式第3号（第7条関係）

会議録

1 附属機関等の会議の名称

令和8年度第1回丹波篠山市在宅医療・介護連携推進協議会

2 開催日時

令和8年8月28日（金）15時00分から16時30分

3 開催場所

丹波篠山市民センター 多目的ルーム1

4 会議に出席した者の氏名（敬称順・順不同）

（1）委員

稲山 美穂子（副会長）、片山 覚、石井 広信、中西 康典、足立 慎吾、赤井
文美代、田村 正二、松原 都子、田中 実也子、井本 知美、細見 篤司、岩崎
弘子、中村 啓、堂東 美穂

（2）事務局

長寿福祉課 檜皮 佐治生、松本 ゆかり、小猿 奈生子

（3）説明者

京都大学 小松 雅代(AMED 事業(日本医療研究開発機構事業))、TISI 株式会社
宮内

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

公開

7 会議資料の名称

・次第

・名簿

・令和7年度丹波篠山市在宅医療・介護連携推進事業について

資料1・参考資料

・令和8年度丹波篠山市在宅医療・介護連携推進事業について

資料2

・在宅医療・介護連携ツール（PHR「篠山つながり手帳の電子化」）
の現在の取組み状況について

資料3・4(当日配布)

・人生会議（わたしの大事をつなぐノート）簡易版「人生会議カード」
について

資料5

8 会議の概要

（1）開会

副会長が開会を宣言し、会議を開始した。

（2）報告事項

(副会長)

それでは、報告事項から進める。

- ①令和7年度丹波篠山市在宅医療・介護連携推進事業について
- ②令和8年度丹波篠山市在宅医療・介護連携推進事業について

(事務局)

資料1・参考資料に基づき説明。

資料2の令和8年度丹波篠山市在宅医療・介護連携推進事業について説明。

後ほど、これまでから本協議会で検討いただいている「篠山つながり手帳」や「わたしの大事を繋ぐノート」の電子化に向けての取組みの現状について、関係者から説明いただくこととしている。

8月には市内のケアマネジャーを対象に、要介護者への口腔ケア定着に向けたケアマネジメント実態調査を兵庫県と一緒に実施しており、その結果をケアマネジャーに返し、ケアマネジメントに活かしていけるように働きかけていく予定。

9月16日には第2回目の多職種連携会議「この指とまれ」を開催予定。今回はACPや人生会議についての内容で、現在、「わたしの大事をつなぐノート」に記載していくような内容をPHR(パーソナルヘルスレコード)に取り込むことについて、講義や体験を通じて、実装できるかどうかを検討するような内容となっている。

また、9月には、丹波市・丹波篠山市のケアマネジャーを対象に、退院時調整ルールの運用調査を実施し、その調査結果をもとに、他丹波圏域内の7病院の代表と丹波市・丹波篠山市のケアマネジャーの代表で意見交換を行い、「丹波圏域退院時調整ルールの手引き」を改訂する予定。

11月には、11月30日が「人生会議の日」であることを市民に周知し、「もしもの時のために」自分の思いを信頼できる人に伝えておくことの大切さを、広報等を通じて紹介していく予定。また、11月23日には、丹波篠山市と丹波篠山市医師会が主催となり、AMED事業(日本医療研究開発機構事業)を受託している京都大学と一緒に、PHR(パーソナルヘルスレコード)の理解促進を図るための市民フォーラムを城東公民館で開催する予定。

また、報告・協議事項③でも説明するが、令和7年度第2回の在宅医療・介護連携推進会議で合意を得た「人生会議カード」の作成については、現在の「わたしの大事をつなぐノート」は大きいために病院等に持参して関係者と内容を共有しづらいという意見もあることから、今後は自分のスマートフォン等に残していけるように検討しているが、まずは「人生会議カード」のように紙で作成し、介護保険の資格者証や病院に受診されときのマイナンバーカード等と一緒に持参し、医師や介護関係者に繋げるようにする。

また、「わたしの大事をつなぐノート」については、これまでに約3000冊程度を作成し、配布しているが、今年度中に不足するため増刷を予定している。

令和9年度には「在宅医療介護のガイドブック第4版」を作成する予定。

(副会長)

ただ今の報告で何か質問はないか。

(委 員)

質疑等、特になし。

(副会長)

それでは、次の報告・協議事項に移る。

在宅医療・介護連携ツール（PHR「篠山つながり手帳の電子化」）現在の取組み状況について
(京都大学 小松教授)

本日は貴重な場で PHR について説明する機会を設けていただいたことに深く感謝する。本来であれば予防医療学の教授である岩見が直接説明させていただくのが筋ではあるが、本日もどうしても大学での授業があり欠席のため、小松から説明させていただく。

本日お話をさせていただくのは PHR(パーソナルヘルスレコード)の普及推進については、丹波篠山市医師会と共に行っており、これまでも丹波篠山市歯科医師会や薬剤師会、介護サービス事業所の方々にも説明させていただいている。その上で、丹波篠山市長にも理解いただき、丹波篠山市とも共同で事業を進めているところである。

この PHR 普及事業については、AMED 事業(日本医療研究開発機構事業)という国の事業研究プログラムの中で行われている。

最近、よく医療 DX や PHR などのいろいろな言葉が出ているので、それを本日配布している資料に整理した。まずは、電子化とデジタル化と DX の何がどう違うのかというところである。

電子化というのは、とにかくアナログであったこれまでの情報を電子ファイルにする状態である。デジタル化というのは、電子ファイルにした情報を様々に加工できるということがデジタル化という言葉になる。

では、この DX(デジタルトランスフォーメーション)、現在使われている医療 DX は、そのデジタル化された様々なデータを用いて、オンラインで世界中の人とシェアをすることができるといことである。関係者で情報をシェアできるということは、医療現場を更に良くしていくことができることになる。DX の X というのは、大きく変えるという意味である。

このことについては、丹波篠山市医師会を初め丹波篠山市は、とても推進できている地域だという自信を持っていていただきたいと思っている。

この DX の推進をすすめるために、PHR 事業を国が進める AMED 事業(日本医療研究開発機構事業)を使って進めていけるのではないかとということを検証するモデルとなっているのが丹波篠山市である。AMED 事業(日本医療研究開発機構事業)を国から受託して進めているのが、京都大学である。

丹波篠山市は人口約 3 万 8000 人の地域である。日本の 1741 自治体のうち 7 割が 5 万人以下の自治体である。ですので、大きな自治体が様々なことをデジタルや DX 化を進めていけるのは、予算的にも人的にも余裕があるというようなところもあるが、5 万人以下の自治体が、今後どのように医療 DX を進めていけるのかどうかについては、この丹波篠山市の事業

が非常に大きな意味があると京都大学としても注視している。

では、この PHR(パーソナルヘルスレコード)について説明させていただくと、個人の情報を生涯を通してデータ保持し、個人が同意した関係機関や関係者と共有していくことが、この PHR(パーソナルヘルスレコード)の仕組みである。

本日配布した PHR(パーソナルヘルスレコード)に関する生活習慣病と災害に関するパンフレットを参照いただければと思う。

個人に関する情報を医療機関や薬局、介護事業所等が持っており、それらの情報を PHR(パーソナルヘルスレコード)データハブで一元化する。そのデータハブから必要な情報を必要な時に、必要な機関が取り出して活用するようになる。しかし、このデータハブというものを作るには、かなりのお金とかなりの技術的支援が必要になってくる。そのデータハブの作成を、AMED 事業を使って、様々な企業に協力いただき作成している状況である。

現在、京大が AMED 事業として進めているモデル事業の地域は、京都府の京都市と丹波篠山市である。京都市は政令指定都市で非常に大きな市であり、丹波篠山市は小地域である。このスケールの違う地域での実装を考えていくのが今回の京大での事業ということになる。

丹波篠山市の場合は、個人の健康管理だけでなく、医療機関と介護事業所等との医療介護連携や終末期の医療やケアに関する ACP や人生会議についても PHR(パーソナルヘルスレコード)に取り込んでいくことも検討している。

今後の普及啓発のスケジュールとしては、医療介護連携や ACP や人生会議については、長寿福祉課に協力いただき、PHR(パーソナルヘルスレコード)普及事業を進めていくために、多職種連携会議や高齢者大学、市民フォーラムに出席させていただき、市民の方々に周知し、意見を聞きながら進めていく予定である。

また、母子保健や電子母子手帳については、健康課に協力いただき進めている。

PHR(パーソナルヘルスレコード)の実際の今の進み具合については、後ほど TISI 株式会社の方から説明いただくこととする。

今後のスケジュールとしては、実際に PHR(パーソナルヘルスレコード)が動き始めるのは、年末から来年の秋ぐらいまでになると思う。現在、順次準備を進めていることを理解いただきたい。

(副会長)

今の説明について質問や意見、感想等はないか。なければ、PHR(パーソナルヘルスレコード)の開発事業者である TISI 株式会社の宮内氏より説明をお願いする。

(TISI 株式会社 宮内)

本日の配付資料を参照。

本日は、PHR(パーソナルヘルスレコード)を活用する際のイメージを共有していただきたい。市民が自身の健康に関する記録を記録し、本人自分の健康管理や家族と共有して生活に活かすことができる。その患者に対して医療機関が健康に関するアドバイス等をすることができる。

他にもいろんな活用事例があるので、多くの市民に周知して活用いただき、更に良いものにしていけたらと思っている。

(副会長)

今の説明について、質問や意見、感想等はないか。

(委 員)

医療機関と介護事業所との連携についてはどうか。以前から検討している「篠山つながり手帳」についてはどうなっているのか。丹波篠山市では、この連携機能が欲しい。

(TISI 株式会社 宮内)

患者を中心に患者と繋がっている医療機関や介護事業所間で、その患者に対する治療の状況や介護の状況などを共有できるような機能を開発している。その中には、患者も含めて医療機関や介護事業所が情報共有することもできるし、患者を含まずに関係機関同士だけで情報共有できるようにする機能も開発している。

大切な患者に関するデータをセキュリティ的にも安全にやり取りできるようにするため、開発に少し時間がかかっている。

(事務局)

例えばデイサービスでは、1日に30人ぐらいの利用者がいる。その中でAさんのことについての情報が届いている場合、何か目印がついたりするのか。それは、かかりつけ医も同様に、情報が届いているのかいないのか、毎日確認しないとならないというのでは、毎日の忙しい業務の負担になり活用されなくなるのではないかと懸念する。

(TISI 株式会社 宮内)

患者の情報が届いているかどうか、目印がつくような機能があるので対応できると思う。

(副会長)

他に質問や意見、感想はないか。

ないようであれば、次、報告協議事項の③に移る。事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

先ほどの令和8年度在宅医療・介護連携推進協議会の事業計画の際にも説明したが、「人生会議カード」の案を資料5で示している。

「人生会議カード」を本年度作成することについては、現在、ACP・人生会議についてもPHR(パーソナルヘルスレコード)に組み込んでいくことも開発いただいているが、今の高齢者の中にはスマートフォンが活用できない方もいるので、令和7年度第2回の丹波篠山市在宅医療・介護連携推進協議会において、「人生会議カード」の作成について同意を得てい

る。

このカードは、折り畳むと介護保険者証とほぼ同じサイズになり、それと一緒に持ち歩くことができ、受診の際や薬局、介護事業所に提示でき、関係者が本人の思いを共有することができるように考えている

「人生会議カード」表面には、もしもの時がきたらという説明を入れ、自分のことを書くようにした。また、気持ちの変化があることを前提に、書いた日や話し合った日を記入できるようにしている。裏面には既に「わたしの大事をつなぐノート」を記入しているかどうかをチェックするようにしている。それは「わたしの大事をつなぐノート」「人生会議カード」が連携しておくことが大切だと考えた。しかし、「人生会議カード」にある「あなたが大切にしていることは何ですか」という内容が「わたしの大事をつなぐノート」にはないので、改訂版を作る時には、この内容を盛り込みたいと考えている。

この案に対して委員の意見をいただきたい。

(副会長)

説明についてご意見やアドバイス、感想はないか。

(委 員)

一つよろしいか。ACP はやればやるほど実は難しい。なぜ難しいかという、本人の気持ちも変わるし、設定する条件が変わればまた違う。最終的に代理決定者の決定支援になるという一面もあるので、いろいろな様式があってもいいと思う。この「人生会議カード」を進めることを反対はしないが、全く違う視点での試みを医師会で行っている。本日、追加で配布した資料がその内容で、誰かが訪問したら亡くなっていたり息が止まっていた時にどうしたらよいのかということに不安を持っている本人や家族が多い。また、介護事業所や訪問看護等も同様である。追加の資料を、65 歳の以上の介護サービスを受ける人や 75 歳以上の人全員に配布したいと思っている。

しかし、まだ病気を持っていない人、病気はあるが自分の死を意識していない人、自分の寿命はそんなに長くないと思っている人としては、全然思いが違うので、同じ様式では意思表示できないのではないかと思います。そのため、個人の状況に合わせて、いろんな形のもので、市民対して、「自分の人生の最終段階が近づいてるあなたの思いに寄り添う医療やケアを、我々はしたいんだ」というメッセージが伝わるのがすごく大事なかなと思っている。

ACP をどのように社会実装するのかというためには、一つのパターンでなかなかいけないので、様々な様式やパターンがあってもよいと思っている。

「人生会議カード」を作って、このカードを写真で撮り、PHR に保存して蓄積していけば、これからの治療をどうしようという時に、過去の思いも確認でき、最終的に代理決定者に相談して、医療やケアの内容を決めることもできる。このように PHR を活用していく取り組みを丹波篠山市で進めていただきたい。

今回のパンフレット作製等の費用は、兵庫県医師会が負担することになっており、本日がその締め切りであったので、とりあえずこの内容で申し込んでいる。

3種類のパンフレット作製や地域の集会所などで講演会もする予定としている。リーフレットの一つは、65歳以上の全高齢者に対して配布し、もう一つは全戸配布を考えている。パンフレットを作ったりする段階で皆さんに意見をいただければと思っている。

(副会長)

この内容は、丹波篠山市医師会からの情報提供である。

報告協議事項③の「人生会議カード」の内容についての意見やアドバイスはあるか。

ないようなので、本日の報告協議事項の検討は全て終了した。各委員からの意見を参考に、事務局で修正し進めていただきたい。

これにて第1回を閉会とする。

第2回は令和9年の3月上旬を予定している。

(3) 閉会

副会長が閉会を宣言し、会議を終了した。